

『一生懸命』幻の新座市議会報告第134弾!



たかむらともや

2016年5月30日発行

③ 来賓やーめた!!

教員だった時代、入学式や卒業式での議員の挨拶程いないものはない、そう思っていました。数年前、議会運営委員会の中で「やめませんか、実は迷惑なんです」と発言し、それを理解してもらって、市議会として挨拶はしないことになりました。

最近の入学式や卒業式に議員の挨拶はありませんが、来賓の紹介はあります。名前を呼ばれて「はい!」と返事をして立って「おめでとうございます!」と同じことを30人くらいに繰り返されると、卒業式の泣きたい雰囲気が無くなってしまいます。

僕自身は金太郎飴は嫌いですので、別のことを言っていました。卒業式も入学式も子ども達と先生方が主役です。金太郎飴のような挨拶が続くと申し訳ないので、僕は来年から来賓で呼ばれても行かないことにしました。勿論、公開授業には行きたいと思います。学校は大好きですから。

③ 自反而縮雖千万人吾往

孟子の「自反而縮雖千万人吾往」です。(読み)みずからをかえりみてなおくんば、せんまんにんといえども、われゆかん。

これは諏訪清陵高校の校是(校訓)「です。その意味は”自分自身で反省してみて、やましいところがないならば、たとえ相手が千万人いようと、私は恐れずに進んでいこう”というものです。

今年の卒業式で校長先生は、”人の話を鵜呑みにするのではなく、自ら現場に足を運び、原典を紐解き、実物に触れ、しっかりと真実を見据える。そのうえで、自分の頭で考え抜き、判断する。その結果、正しいと確信した道を、志を同じくする仲間と、協力し合い、励まし合い、どこまでも突き進んでいく。これが、本校120年間追い求めてきた理想の清陵生像であり、それは、これからどれほど時代が変化しても変わらないと信じます。”と卒業生に語っています。その言葉は18歳の諏訪清陵生だけではなく、僕たち大人にも響くものです。「自反而縮雖千万人吾往」の精神でいきたいものです。③



4月24日(日)の川掃除の写真です。新座駅から初参加の大輔は雨の中、リヤカーを引いてくれました。5月の川掃除は日22(日)の予定です。③

たかやんのプロフィール



本名たかむらともや。

1954年(昭和29年)2月、東京青山生まれ。新宿区立西戸山中学校、都立石神井高校卒。北海道大学3年生の時に、突然教師を目指し、北大卒業直後の4月、

23歳で五中1期生の3年4組を担当する。「一生懸命」は20年間書き続けた学級通信の名前。

大好きな政治家は田中角栄。ホセ・ムヒカ。大嫌いな政治家は断トツで安倍晋三。そして、舛添要一。大好きなものは「テニス」「音楽」「子どもたちの笑顔」「川掃除」「駅立ち」「動植物」

大嫌いなものは「今の自民党」「弱い者いじめをする奴」「煙草を平気で道路や川に捨てる人間」「煙草の煙」「集団的自衛権」「TPP」「消費税」「改正派遣法」「マイナンバー」「欲に塗れたグローバリストと政治家」「議会で野次を飛ばし、居眠りする議員」「税逃れをする金持ち」

身長175センチ、70キロ、体脂肪率14.5% ③
この写真は大学4年の教育実習のときかな...

たかやんの応援団 で 検索

たかやんの連絡先 自宅 042-456-8869 携帯 090-6497-5737
mail:takayanchan@jcom.home.ne.jp 〒352-0033 新座市石神3-19-32-106

③ 消費税とPTA

この4月、「我が家はPTAには入らない！」という決断をしました。何も知らない息子には悪いのですが、黙ってられなくなりました。PTAは任意団体です。入るのも入らないのも自由な筈ですが、加入の用紙さえありませんでした。しかも、PTA会費は副教材などと一緒に銀行から引き落としされるのです。それだけなら、まだ我慢できたのですが、それに加えて「一人一役」という役割が明記されていました。PTAの役員も”平等”に籤引きというのです。

ボランティア団体のPTAが平等に「一人一役」を主張することに「異議あり！」です。日本全体が格差社会になってきていて、子育て世代も働くことに必死な時代なのです。PTAで仕事を休んでも、その賃金は勿論、誰も補償してはくれません。「そんなことで休んだら、クビになってしまう」という人もいます。

育児と親の介護の両方で辛い思いをしている人達も沢山います。そこに”平等”という概念を持ち込むこと自体間違っています。

消費税も同じです。”平等”とは名ばかりで、実際には格差社会をつくりだす元凶のような税なのです。消費税増税を叫ぶのは、グローバルIST達と彼らから支援を受けている政治家や大金持ちか、経済を知らない人達です。法人税の減税とセットでスタートした消費税は大儲けしている大企業には嬉しい税ですが、赤字で喘いでいる会社や貧困に喘いでいる国民から見ると、悪魔の税なのです。

月に100万貰う人が、月に50万何かに使うとします。消費税は10%になったとしても5万円。45万の貯金が残ります。消費税は痛くも痒くもありません。一方で、月に20万貰う人がいます。家賃と光熱費を払うと残りは10万ないでしょう。その中から食費を払います。消費税の重さが想像できない人は心が貧しいか、数学的能力がないか…どちらかでしょう。

消費税は安定的税であることだけは確かですが、”平等”でもなんでもありません。金のある人達が更に金持ちになり、貧困に喘ぐ人たちが這いあがって行けないシステムをつくり出す、税とは呼べない代物なのです。PTAも同じです。「学校の為に」「子ども達の為に」と言われれば、やらないといけないうように思ってしまうのですが、仕事を休んでまでやるものではありません。みなさんはどう思いますか。

③ ホセ・ムヒカ

世界でもっとも貧しい大統領と呼ばれている、ウルグアイ第40代大統領ホセ・ムヒカの言葉が心に響きます。「貧乏とは、欲が多すぎて満足できない人のことです。」グローバルISTや多くの政治家には耳の痛い言葉でしょう。ムヒカは言います。「余裕のある人には弱者を助ける義務がある。貧しい人々の生活が改善されれば、我々の生活もよくなります。」

大儲けしている大企業の経営者や大金持ちは、欲が多すぎて満足できず、パナマ文書で明らかになったように税逃れに必死になり、その分を消費税増税してしまえ！と圧力を掛けています。貧しい人々を助ける気など、更々ないし、日本という国を愛する気もないのです。ムヒカに言わせると、彼らこそ「貧乏」ということになります。

ムヒカは言います。「人生は貰うだけでは駄目なのです。まずは自分の何かをあげること。どんなにボロクソな状態でも、必ず自分より悲惨な状態の人に何かをあげられます。」今のあなた達の生活は決して楽ではないかも知れませんが、でも東北や熊本で被災した人達と比べたら、何千倍も幸せな筈です。そう考えることで、ボランティアに行けたり、お金を出したりできそうですよ。ムヒカはそう言っているのかも知れませんが、ホセ・ムヒカは言います。「物であふれることが自由なのではなく、時間であふれることこそ自由なのです。」誰でも一日86400秒という時間を平等に持っていますが、その時間を自由に使えるかという疑問です。僕らは生活をする為に働かなくてはいけないし、子ども達に少しでもいい教育を受けさせたいと思っています。それでも自分にとって自由な時間が多い方が豊かな人生になりそうです。

下の写真は僕の生きがいであるこども達です。③



読み終わりましたら、お知り合いの方にさしあげてください m (_ _) m